BOB会北海道支部だより
JTBグループOB・OG会 北海道支部

第159号
2019.03.08

事務局：〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目1-2 アーバンネット札幌ビル8F（株）JTB札幌事務所内 TEL：011-222-4343 FAX：011-232-3737

≪ お客様紹介運動・ナイスギフト販売で、JTBを応援しよう！！ ≫

＝ ナイスギフト販売のご協力お願い ＝

お祝い・イベントの景品等々に、ナイスギフトのご利用をお願いします。
ナイスギフト券の購入で、デパート・ショッピングセンターでのお支払いにご協力をお願いします。

お客様紹介運動　2月の実績速報

2月のお客様紹介運動の実績速報をお知らせします。
紹介者は、坂田　勲さん国内1件、安藤　廣さん国内1件、佐久　克彦さん国内1件でした。
ご紹介有難うございました。

	件数			販売人員			販売額（千円）		
		前年比	前年良否		前年比	前年良否		前年比	前年良否
2月	3 件	60.0 %	△ 2 件	10 人	125.0 %	2 人	454 千円	157.3 %	165 千円
累計	26 件	55.3 %	△ 21 件	93 人	60.0 %	△ 62 人	16,717 千円	73.7 %	△ 5,978 千円

ナイスギフト　2月の実績速報

2月のナイスギフトの販売速報をお知らせします。
販売頂いた会員は、淺川　敏雄さん1件、南口　忠光さん1件でした。
販売ご協力有難うございました。

	件数			販売額（円）		
		前年比	前年良否		前年比	前年良否
2月	2 件	66.7 %	△ 1 件	25,000 円	16.1 %	△ 130,000 円
累計	51 件	66.2 %	△ 26 件	1,936,000 円	57.5 %	△ 1,433,000 円

＊『お客様紹介運動』、『ナイスギフト』速報は、(株)JTB　札幌事務所へ月末迄に報告された実績です。
翌月に報告された実績は、次月の「お客様紹介運動 」、「 ナイスギフト販売 」に加算集計します。

2019年度BOB会費引落しについて（本部より）

4月10日（水）、ご指定の口座から2019年度会費5，000円を口座振替させていただきます。
例年、残高不足や口座変更未届けで口座振替できないことがあります。口座振替ができない場合は、お一人おひとりに請求書をお送りし、改めてお振込みをお願いしなければなりません。会員の皆様にはお手間を取らせますし、事務局は大きな労力と費用が発生します。
つきましては、あらかじめ残高の確認をしていただくようお願いいたします。

特別寄稿

世界の旅

去りゆく平成～御代の「賜り物」に心からの感謝を込めて
熟年旅行一年を振り返る ≪この道は、いつか来た道≫

H30.6～H31.6

付録：ちょっと！昔のことを

金子　唯雄（H31/2）

○平成３１年は皇位継承と改元の年、４月３０日で一つの時代が幕を下ろそうとしている。
歴史的な代替わりは、クルーズと重なり、ドバイ（ＵＡＥ）からサラーラ（オマーン）に向かう船上になる。昭和天皇崩御と平成の世はハワイで迎え、今上天皇の譲位と新しい元号の世はクルーズ船上で迎える。珍しい経験である。

○年金受給年令になり、誰しもが、何よりも健康と平安を気遣う、煙の様な余生を迎えた。“旅行者として海外旅行をしたい”、昔に抱いた細やかな夢である。１０年前から、嘗て魅せられた旅の道を、夫婦と共に巡る機会に恵まれた。人生を彩る、掛け替えの無い貴重な経験をした。改めて旅の素晴らしさを噛締め、沢山の思い出を残す事が出来た。余生に訪れた幸運を喜び、深く感謝している。正に、「平成御代の賜り物」である。

旅の推進力は好奇心と意欲、動力は気力と体力にかかっている。近頃は色々と体にガタがきているようだ。今まで出来たことが出来なくなっているし、確かに無理がきかなくなってきた。同年代の悩みは同じで、誰しもが辿る人生晩節の加齢現象、年だと云う。退屈はつまらないものだ。迎える新しい世にも老夫婦の旅は継続出来るのだろうか？

○海外旅行の昔と今は確実に変化している。世界遺産の登録は毎年増え、今では千箇所を超える。地球規模の世界的な大旅行時代である。アジア人の現在の外国旅行者は中国人が主役である。宿泊者とのトラブルを避け、チェックインの際に保証金にカード登録か、現金支払を求めるホテルが増えた。客室はシンプルで全く素っ気がない。余計なアメニティはなく、あるのは空冷蔵庫だけ。最近はモラルのない、行儀の悪い客が増えた様だ。

現金はチップと飲み物代程度で足りる。カード決済時代、主にJCBと予備にVISAを持参し、何の不自由なく世界中を旅してきた。手元に現金が必要になった時はATMで用立てが出来る。不測の事態を想定し、出発前に最大級の限度額に設定するのが望ましい。

多くのツアーで新婚夫婦と一緒した。新婚旅行は広域多様化し世界に羽ばたいている。

この１～２年、日本人旅行者の世代構成は団塊世代の女性グループが急増している。戦後経済の高度成長を支えた競争社会の世代、熱いエネルギーは今もなお健在である。

○辿り着いた旅の結論は「国と民族・宗教の確かな歴史を知る」事。日本は神話と共に誕生し万世一系の天皇を中心に、２６００年の歴史が続く建国長寿国、争いを嫌い世界で最も平和と自由を愛し、識字率の高い文化的な民族。'２０年東京オリンピック、'２５年大阪万博、'３０年札幌オリンピック招致と続く。敗戦と占領、戦後に失った日本人の愛国心と誇りを取り戻し、２０数年間の失速経済を立直し、暮しの安定が実感できる輝く日本の復興と繁栄を願う。戦争は全てを破壊する。

平和な世界は人物往来が盛んになる。

○この１年間に訪ねた国々の思い出をここに記す。今回の旅は、若い頃に行った再訪問国、《この道は、いつか来た道》である。２つの思い出が重なる。

EXTRA!! 号外
ハワイ報知
天皇陛下崩御
アロハパラダイスガイド

＊ワイキキ滞在中にて昭和天皇崩御
「ハワイ報知」号外で知る
1989(S64).1.6／現地時間11:33am

＊初めての熟年世界の旅～イタリア
ピサの斜塔：ドウオーモ広場にて
2009(H21).9.15

●H30.6 ハンザ同盟の古都と歴史が息づく街々を訪ねて華麗なるドイツ浪漫紀行１０LH

【ブレーメン～ハンブルク～ビスマール～リューベック～シュベリン～ベルリン～マイセン～ドリスデン～ライプチヒ～ワイマール～アイゼナハ～フランクフルト】

３年ぶりのドイツの旅だった。再統一の大ベルリンを挟み、ハンザ同盟の中心都市と文学と音楽の高い文化人を輩出した故郷を廻る北ドイツのバス旅である。無理・無駄がなく、心地良いテンポで進行する日程を楽しみながら、新たなドイツ再発見の旅になった。

旅行中の天候は気温１０～２０℃前後、例年より曇りがちでやや寒かった様である。

東へ払う復興税を課し、格差は縮まったと云うが同一労働で受給する東西の賃金格差はベルリンで約１０％の違いがあると云う。西のアウトバーンの老朽化が激しく、至る所で道路工事が進んでいた。

大戦時の空襲による市街地の破壊は全街に及び傷跡は想像以上に大きい。来年は再統一３０年目になる。戦時中の被災記録保存活動や街の蘇生修復と都市再開発は全体的に進行中に思えたが、完全な復興と経済統一はまだ時間がかかりそうに思う。

ブレーメン～動物たちが協力して生活を切り拓くグリム童話「ブレーメンの音楽隊」の像が立つ街。

ハンザ自由都市の一つ、ドイツ第二の港湾都市である。

ハンブルク～８０８年、カール大帝時代に海賊の前哨基地として建都。エルベ川と運河を利用して内陸物資を集散する世界最大級の港湾都市。ブライアンとの出会前、ビートルズは１９６０年から２年間クラブで演奏活動をした街。無査証で強制送還されたらしい。

ビスマール～１３世紀初、近郊からの移民で建街。１２９５年バイキングの襲撃を防ぐ為、リューベック・ロストック３国で基督教共同体の協定を締結、ハンザ同盟の基礎となる。

リューベック～１３世紀から１４世紀、ハンザ同盟の最盛期バルト海の海産物と北欧への塩の通商路で大いに繁栄を極めた。同盟の盟主国で「ハンザの女王」と呼ばれた。ノーベル賞受賞トーマスマン、ギュンターグラス（文学）、ウイリーブラント（平和）を輩出。

シュベリン～中世は４０部族の領主だった。現在は湖水地帯メクレンブルク地方の古都で、産業・文化の中心地として君臨する。城は大戦中爆撃を逃がれ、中世の遺産が多く残る。

ベルリン～１９９０年再統一後、首都大ベルリンとして国際舞台の中心に踊り出た。

ポツダム～１９４５年7月１７日から翌月２日、４月ドイツ無条件降伏後、米英ソ首脳間で現在に繋がる戦後処理が話し合われた街。会場はツェツィーリエンホーフ宮殿、議長は米国新大統領トルーマン、英国代表はチャーチル、会議中選挙に敗れ２７日から労働党党首アトリー新首相に代る。当時はソ連占領地、会場は当時のまま保存されている。

マイセン～１７０９年、欧州で初めて白色磁器の製造に成功、世界的に有名な高級磁器の産地。原型は中国の器。空襲は免れ家並み石畳に中世の面影が残る。有田町と姉妹都市。

ドリスデン～大戦中ドイツ最大の被災地、一夜の空襲で市街が瓦礫の山になった。１９８５年ゼンバー歌劇場、２００５年プロテスタント教会でドイツ最大のブラウエン教会が復元完了。

戦後、市民の力で完全に廃墟と化した荒廃の街から「芸術と文化の都」として見事に甦った。

ライプチヒ～中世から金融商業の街で発展、バッハは聖トーマス教会の音楽監督として後半生を過ごした。１９８９年ニコライ教会民主化の祈りとデモから統一の一歩が始まった。

ワイマール～一次大戦後国民議会をおき、ワイマール憲法を制定、ドイツ初の共和国誕生。先進国と比べドイツの国家統一と議会制民主主義は１００年遅れたと云われる。１９９９年欧州文化首都に指定、人口６万人の町に年間９００万の観光客が殺到したと云う。

アイゼナハ～バッハの生誕地。ヴァルトブルク城はワーグナーのタンホイザーのモデルになった。城内にはギリシャ語からドイツ語に新約聖書を訳したルターの小部屋があった。

フランクフルト～中世の神聖ローマ帝国皇帝選挙や戴冠式等の行事が行われた。ゲーテ生誕、金融・商業メッセで有名。旅券再発給でお世話になった３年前の恩人と再会した。

○カール大帝と神聖ローマ帝国～７６８年、カール大帝はフランク王国の国王となり、治世４６年間に５３回の軍事遠征で西ヨーロッパの政治的統一を果たす。大帝は古代ローマ、キリスト教、ゲルマン文化の融合を図り、４世紀ゲルマン民族のローマ領内への大移動以来、混乱した西ヨーロッパ社会に安定と繁栄をもたらした。大帝は中世以降のキリスト教王国の太祖として「ヨーロパの父」と呼ばれる。死後８４３年に王国は分裂した。

神聖ローマ帝国は９６２年オットー一世戴冠で成立―１８０６年ナポレオンを盟主としたライン同盟成立で解体とされるが、大帝は８００年ローマ教皇レオ３世によりローマ皇帝位を戴冠された。

傀儡を理由に東ローマ帝国は承認を拒否したが、歴史上の通例では神聖ローマ帝国初代皇帝統治は大帝の即位から在位１４年間とされている。

○ハンザ同盟～１３世紀から１５世紀、北ドイツ・北海バルト海で活動する商人団体により通商・交易上の利益保護を目的として結成された自由都市同盟。１２９５年、リューベック・ビスマール・ロストックが結んだ共同体の協定が基礎となり発展した。最盛期は１４世紀、加盟都市はリューベックをを盟主にハンブルク、ブレーメン等１００を超えた。１７世紀起きた３０年戦争で終焉。ハンザ同盟は今もなおドイツ人の誇りと云う。

○ルネッサンスと宗教改革～１１世紀から１３世紀、大司教による十字軍による聖地奪還の失敗は後の教会批判の要因になる。１４～１５世紀、大聖堂の修復資金調達の為に免罪符発行。全欧で大干ばつとペストの大流行が重なり人口３分の１の３千万人が死亡。欧州に先が見えない社会不安の時代が到来。ローマ教皇の力が衰退、復興思想・原点思想が台頭。古典古代時代の復興運動は伊ルネッサンスに、聖書の原点見直しは１６世紀ルターの宗教改革へ繋がる。１４５０年頃活版印刷術発明、書物印刷が盛んだったアントワープから始まった情報革命は芸術文化宗教改革の急速な波及に影響したと云われる。

○１８世紀、プロイセンを中心に国家統一の機運と民族意識が高まる中でドイツ浪漫主義が唱えられ、音楽の分野でバッハ、ベートーベン、シューベルト、ブラームス、ワーグナー、文学の世界ではゲーテ、ハイネ、シラー、ヘッセ、トーマスマン、グラス等の多くの天才が登場し、輝かしい業績を残した。不幸な大戦と東西分裂の時代を経て、ドイツは伝統的で高い文化の香りと美しい自然の景観の国となる。（JTB Travel Mapから）

6.18ハンブルク　赤レンガの倉庫街

6.20シュベリン城

●<u>H30.7　デナラウ・リゾート(ウェスティン)に泊まる　フィジー６</u>

フィジー航空は今年７月３日から９年４ヵ月ぶりに、週３便の日本直行便が再就航した。
撤退は２００９年３月、理由は半年前のリーマン・ショックによる旅行者の減少による。
７月は雨がなく快適なシーズン、久しぶりにのんびりと、気ままに、新直行便に乗って、南太平洋の楽園フィジーの滞在を心ゆくまで楽しんだ旅だった。
ギャラップ社の米国世論調査で、２０１７年２０１８年と連続して「世界一幸福な島Ｎｏ．１」に選ばれたと云う。朝、部屋を出ると従業員から“ＢＵＬＡ”の挨拶とあふれる笑顔が返ってくる。大変清々しく、幸福感に満ちた気持ちの良い一日のスタートになった。

<u>概　要</u>～日本から＋３時間の日付変更線寄り、赤道と南回帰線の間に位置する南太平洋の共和国。緯度は南緯１７度、オーストラリアのケアンズやタヒチと同じである。現在は英連邦加盟国のフィジー共和国、人口約９５万人で８５％がビチレブ島とバヌアレブ島に集中。３３０余りの火山島と珊瑚礁からなる南太平洋の群島国家。ビチレブ島は東に首都のスバ、西にナンディがあり、面積は四国程度の大きさである。
スバはナンディから飛行機で３０分。陸路は公共の足はなく、タクシーで３時間前後。道路整備はすすんでないので避けた方がよいと云う。ナンディは人口３万１千人、首都スバ、ラウトカに次ぎフィジー第３の都市。観光客は年間３５万人（１９９６年）が訪れる観光都市。国際空港は南太平洋の玄関になっている。
民族はフィジー系５７％、インド系移民３８％で構成。日本人の就労者は１００人位と云う。経済は観光とさとうきび農業。フィジアンは男女共丸くて大きく笑顔にあふれている、インド系人は逆の体型、仕事をこつこつと真面目にこなす様に見受けられた。
気候は熱帯雨林気候で年間通し３０℃。滞在中の７月は冬の季節。日中の陽射しは強いが雨はなく、夜は２０℃前後で過ごし易い。クーラーなしで心地よく安眠できた。

観光客～年間８３万人。オーストラリア５０％、ニュージーランド３０％、アメリカ１０％が主、日本人はわずか５０００人前後に過ぎない。（２０１５年調べから）２００４年からFree Bird Instituteはナンディにキャンパス置き、年間１５００人の英語学習を目的にした留学生の受け入れをしている。
アジア系は中国と韓国が目立った。オーストラリア人かニュージーランド人の声かけは“中国人か？”“韓国からか？”“ニーハオ”が多く、日本人は認知されていない。９年間の路線運休と旅行先の変化影響したのだろう。
デナラウ・リゾート～国際空港からの利便性に恵まれた最もナンディに隣接した島である。島内には高級ホテルとゴルフ場が揃い、オーストラリア人などの別荘が立ち並ぶ。
２００７年オープンしたポート・デナラウ・マリーナを有し、島間に行き交う海上交通の拠点基地となる先進リゾートエリアである。ホテルは、英米系ウェスティン、シェラトン、ヒルトン、ウィンダムにフランス系ソフィテル、北欧系ラディソン・ブルーと国際色豊かなリゾートを形成し、島全体の安全が確保された別世界である。リゾート開発の歴史は古く、１９７０年独立直後シェラトンの進出に始り１９７２年ウェスティンが続いた。
有名な日本人～図越（ついこし）智仁・浩美夫妻はフィジーの誰でも知る有名人である。
２０００年前後バヌアレブ島に移住、フィジーになかったチョコレート作りを考案。
絶滅寸前のカカオ生産の再生立ち上げに成功。スイーツ作りでバヌアレブ島のナブニイビ村を救った日本人の功労者である。２０１０年経営する「カカオ再生プロジェクト」はフィジー国総理大臣賞を受賞。人気商品は“４つ星チョコ”「フィジアナカカオ」、価格は店や買い方で異なるが１枚F$13.75～F$16.95、(F$1=60円)。販売網は増えつつあると云う。
不測の出来事～旅につきも。往路離陸後Ｃクラスの座席の故障が判明、座席変更で解決。初泊の部屋はダブルとシャワーのみ。変更した翌日からの部屋は漏水によりバスタブ使用不能、シャワー利用で過ごす。よくある事が特定個人に偶然重なった結果であろう。
クレジットカード登録～チェックイン時、食い逃げ防止にカード登録が必要。最近多い。中国人対策で始まったと云う。当ホテルはＪＣＢ未加盟。ジャックス等の商店は使用可。
航空会社ＦＪの提携契約～ＡＡ，ＱＦ、将来的には拡大の方針と云う。

○古くはメラネシア系パプア人が住みつき、トンガ人が移民し住み着く、文化面ではポリネシアの影響を受ける。１６４３年、東インド会社のオランダ探検家タスマンがタスマニア島、ニュージーランド、フィジー北部へ最初のヨーロッパ人上陸。１７７４年海洋探検家キャップテン・クックの南部上陸。１８７４年には英国との植民地になった。１８７９－１９１６年英国人はさとうきびの大規模農園の作業の為、植民地のインドから契約労働者として４７９人のインド人を移民させた。現在のインド系国民の先祖である。

○現在は軍政をしき、英連邦加盟国であるオーストラリア・ニージーランドの民主化の対応で対立があり、これら両国の内政干渉を嫌い中国との関係を強化している。中国の建築・インフラ整備などで中国の援助が増え、年間１万人前後の受け入れをしていると云う。最近は豊富な漁業資源の獲得を目的に中国の進出が活発で、首都スバを中心に中国人の商店が増えているそう。南太平洋諸国では親日的な云われる。

○想い出～１９７７年正月フィジーを訪ねた。１９７０年に英国から英連邦国として独立後の間もない頃である。ナンディは寒村。空港からヤヌサ島に至る道の両側は砂糖きび畑。ビチレブ島西南部の海岸線は珊瑚礁が広がる。太陽が輝き、自然が溢れる島だった。

宿泊は９ホールのゴルフ場併設のヤヌサ島老舗のリゾート、フィジアンホテルだった。
今はシャングリラフィジアンリゾートと名を変え高級リゾートに変貌したと云う。ヤヌサ島行を試みたが、足はデナラウ島からタクシーで約１時間、車代は往復１万８千円前後が必要。他に頼る公共の足はないと云うので断念した。当時、この地で有志による旅先コンペをやった。某氏によるホールインワン海外達成の快挙が懐かしく想い出される。
マナ島は、当時、日本資本によるリゾート開発の計画が持ち上がっていた。日本が激減する中、島の日系施設は今もしっかり頑張っていた。日本人の従業員がいるので言葉の不自由はない。ラグーンが広がりマリンスポーツは格好の島である。

メケ踊りに使う伝統的楽器“舟形太鼓”

マナ島へ　ポートデナラウマリーナから

●H30.10　青の街シャウエンとサハラ砂漠を行く！　モロッコハイライト９

【カサブランカ～ラバト～シャウエン～フェズ～エルフード～メルズーガ大砂丘～カスバ街道～トドラ峡谷～ワルザザート～アイト・ベン・ハッドウー～マラケシュ～カサブランカ】

アフリカ大陸北西部・サハラ砂漠の西端に位置するモロッコ、国のイメージは月の砂漠・ラクダ・隊商・オアシスの印象が強い。国を象徴する派手なモニュメントはないが、先史、フェニキア・ローマ・ビザンチン支配が続く人類有史の歴史を重ねた。過去と現在が混在する民族の伝統文化と生活は固有の旅情感を醸し出す不思議な魅力と感動が残る旅だった。

カサブランカ～人口４００万人以上のマグレブ諸国で最大の経済都市。リン鉱石や農産物の重要な輸出港。１２世紀アラブ人の海賊の拠点、すでに貿易港として発展。マグレブ諸国とはアルジェリア、チュニジアのアラブ３国、「西方に日が没する処」の意味。

ラバト～首都、行政都市。ヤシの並木が続く通りや、緑豊かな公園が広がり、静かで落ち着いた雰囲気の町。植民地時代フランス人の設計による。別名「庭園都市」。

シャウエン～アラビア語で「角」を表す。北部にある２つの峰の山間の小さな街、山の斜面に階段状に広がる白壁と青の世界の旧市街。青い塗装は害虫予防、生活の知恵である。

フェズ～７８６年、モロッコ初のアラブ人によるイスラム王国最古の都、１２００年以上の歴史を残す。伝統的なモスク、複雑な旧市街(メディナ)は世界最大の迷宮都市である。

イフレン～標高１６６７ｍの高地、モロッコとは思えない田舎町。ヨーロッパ風のたたずまい、欧風アルペンリゾートの趣。フランスの植民地時代１９２９年保養地として建設。

エルフード～ズィズ川一帯のオアシスの中心サハラ砂漠の入口。遊牧民文化色が強く、変化に富んだ自然と気候風土は別世界の大地。１９１７年フランスの駐屯地として造られた。

メルズーガ～エルフードから４WDで約２０分、サハラ砂漠のシェビ砂丘の中の小さな村。

カスバ街道～エルラシディアからティネリール経由でワルザザートを結ぶ東西通商ルート。先住民ベルベル人旧居住地とオアシスが点在。カスバとは、城塞で囲まれた要塞の意味。

トドラ峡谷～カスバ街道きっての景勝地、奇岩の絶景、ロッククライミングの聖地。

ワルザザート～サハラ砂漠の西の入口。山と砂漠の狭間には要塞化された嘗ての村カスバやオアシスが点在。１９２０年代仏軍最前線基地として建設、現在はモロッコ軍が駐屯。

アイト・ベン・ハッドウー～日干しレンガ造りのクサル（要塞化された村）で砂漠の民、先住民ベルベル人の住居がそのまま残る。モロッコ一美しい村と云われ、現実離れした不思議な風貌は映画のロケ地として有名である。「アラビアのロレンス」「ソドムとゴモラ」「ナイルの宝石」「ハムナプトラ２」「プリンス・オブ・ペルシャ／砂の時間」等

マラケシュ～１０７０年代、ベルベル人による最初のムラービト朝イスラム国家の首都、２００年後フェズに遷都、１５世紀半ばサアード朝が再び首都に。現在もエネルギッシュな交易と人物往来の要衝、商工業、学問、情報、商業・文化歴史を集積する、云わばモロッコの縮図街。450ｍの高原に位置、古さはフェズに次ぎ、人口１１０万２番目の街。

○モロッコのイスラム王国～６１０年頃メッカでイスラム教誕生。６８２年布教の名のもと侵入したアラブ人が地中海沿岸を征服、先住民ベルベル人のイスラム化が進む。７８６年、預言者ムハンマドの子孫に当るイドーリス王朝イドーリス１世によるフェズ統治が始まり、モロッコに初のイスラム王国が誕生した。２０世紀初、欧州列強の争いに巻き込まれ、１９１２年フランスの植民地になる。大戦後、政治的地位向上を求める民族運動が激化、１９５６年、１７世紀から続くアラウイー王朝ムハンマド５世の導きにより独立。１９６１年、５世の死後はハッサン２世が統治。現王朝は即位１９９９年、アラブ人の父とベルベル人の母とするムハンマド６世王、５５歳である。モロッコのイスラム王朝は、王国建国以来１２３０年続く世界２番目の王室継続の歴史がある。現在、教祖ムハンマドとその一族の血を受け継ぐ王室はモロッコとヨルダン王朝（アブデドウッラー２世王５７歳）、盟主国サウジアラビア王室とは特別な親交にあり、現代アラブ社会では深く敬愛されている。因みに世界最長は２６００年続く我が国日本の皇室である。

○魅力～日本の１．９倍の国土、人口３４００万人、アラブ人６０％先住民ベルベル人３５％混血が多い。宗教はイスラム教スンニ派９９％、ユダヤ教、キリスト教も認め、欧州中東にみる宗教宗派による国民抗争はない。アルコール飲料ＯＫで寛容の王国と云われる。欧州、アフリカ、アラブを繋ぐ交易の十字路として重要な役割を果たしてきた。ベルベル人の伝統とイスラム文化が結び付き、ヨーロッパのエッセンスが程よく混じったエキゾチックな雰囲気がある。時間と伝統文化が現在に交差するモザイク文化である。買い物は品質、価格はバラバラ、どこまで信頼出来るのか？現地のスルーガイド、アミン氏は云う、モロッコには「コントロールがない」と。この嘆きが強く印象に残る。

○風土と文化～地域により全く異なる４つの個性的がある。地中海沿岸はスペイン色、太平洋沿岸はポルトガル色、海岸リゾートと豊かな広大な農業地帯が広がる。背骨の様に中央に走るアトラス山脈スキーリゾート、東に広がる１０００m前後の高原はカスバとオアシス、サハラ砂漠と遊牧民族文化。南はブラックアフリカ。地域により風土、気象は全く異なる。建築物、衣装、音楽、踊り、全てにおいて文化的に強力な個性がある。戦いの歴史は民族の意識から消えない。戦いがない日本は友好の歴史が残る。

○下っ腹の反乱～到着３日後の夕刻（１８日）、重度の下痢発症、日を追うごとに重症化。
２０日（土）夕刻、医師の診察を受診、点滴、薬の処方５日分と食事指導（バナナと人参食）を受ける。幸い帰国日には回復。医師の所見は「香辛料と油」が主因、多くの日本人の症状で、慣れない食事が原因と云う。間接要因には、１８日降雨と低温の中終日徒歩でのフェズ旧市街観光があったと思う。装備不足と非常用携帯食等準備不足である。

○想い出～モロッコの旅は１９８０年（昭和５５年）２月に、ツアー「マグレブ３国と地中海文明欧州１６」で訪れた。３８年８ヵ月ぶりの再訪である。イスラム教にはしなければならない毎日の祈りは５回ある。昼の祈りの時間、運転手がバスを止めて、メッカに向って祈る姿があった。異なる異国の習慣に驚いた。

10.17 シャウエン旧市街　青の世界

10.20 トドラ渓谷の奇岩の絶景とトドラ川

●H31.1　ジョクジャルタに宿泊！　バリ島とボロブドゥール満喫６

【デンパサール～ジョクジャカルタ（ボロブドゥール、ムンドウツ寺院、王宮・ガムラン演奏・伝統舞踊・水の宮殿・バティック（染色）工房・ルアックコーヒー工房、プランバナン）～デンパサール（テガラランの棚田、キンタマーニ高原、芸術の村ウブド・プリルキサン美術館・王宮・市場、銀細工工房、ウルワツ寺院・ケチャダンス鑑賞）】

航空はポイント利用、直接航空会社とやり取りした。出発の４０日前から、DPS/JOG間の便変更が３回、最終的には一週間前に往復全便変更の連絡である。理由は減便だと云う。

地上手配は万全、完璧な受入だった。１月は雨季で最も降雨量の多い月、自然は嘘をつかなかった。

絶景に期待したボロブドゥール日の出の時間は大粒の雨、景勝地キンタマーニは高原の景観を覆う雨雲、ケチャは最高潮半ばで豪雨のため途中退散。納得の観光である。

時空を超えて輝く巨大な遺跡群、伝統に培われた崇高な王朝文化を残すジャワ島は目を見張るものがあった。大リゾートに変身したバリ島は眩しかった。挨拶は微笑ましく感謝を込めて合掌し、祈りと供え物を捧げ神々への信仰に生きる人々の姿が心に残る旅だった。

ジャワ島～８世紀大乗仏教とヒンドウー教が渡来、島中部北は仏教国、南はヒンズー教が統治し友好的に交流。１６世紀、王朝は新勢力イスラム教に滅ばされた。１７世紀以降、オランダ支配と複雑な歴史を経る。９世紀以来のヒンズー教の華やかな王朝文化は、イスラム王朝まで続く。

１０世紀に誕生した人形芝居・影絵や民族音楽ガムランと古典舞踊・宮廷料理がある。宗教はイスラム教９０％、キリスト教、仏教ヒンズー教である。

ジョクジャカルタ～「平和な街」の意。９世紀ヒンズー教古王国時代に建設、王朝文化が栄えた街。人口６０万人の国を代表するジャワ島の古都。ジョクジャカルタの北に位置する活火山ピラム山は、近郊の多くの寺院遺跡を火山灰で埋め尽くしてきた。

仏教遺跡ボロブドゥール寺院～１８１４年、千年ぶりに英国人が発見、今も謎が多い。８世紀シャイレンドラ王朝により建造された、高さ３４．５ｍ、壮大な世界最大の仏教寺院。

プランバナン～仏教とヒンズー教寺院遺跡群。その中心には９世紀建造のジャワ・ヒンズー教を象徴する壮麗なロロ・ジョングラン寺院が建つ。主堂の４７ｍのシヴァ神殿、左右にブラフマー、ヴィシュヌ各神殿の３大神により宇宙の真理を示していると云われる。

バリ島～１６世紀、ヒンズー王朝の王族や僧侶が逃れた島。島で育まれた元々の自然信仰とヒンズー文化が融合、独自の文化を醸成開花させた。伝統と神秘的な佇まいからインド洋に浮かぶ神々の島と呼ばれている。人口４２２万人、９割がヒンズー教を信仰。１９６０年代以降島の魅力が再発見され、小さな貧しい漁村から年間３００万人の観光客が訪れるアジア有数のリゾートに発展。経済の支えは広大な果樹園農業と漁業である。

ウルワツ寺院とケチャ～インド洋を望む半島突端７０ｍの断崖絶壁に建つヒンズー教寺院。１１世紀海の精霊を祭る為に建立。伝統劇ケチャは祖先の霊に祈りを奉げる呪術的舞踊劇から、２０世紀初め神話をテーマにしたヒンズー教伝統の英雄伝説の武闘劇に変った。

ウブド村～ジンバランから北の３５ｋｍ、内陸部を代表する芸能と芸術の中心地、バリ本来の文化が感じられる人気のエリア。万物に宿る神々へのお供え物の花の産地。

テガラランとキンタマーニ高原～テガラランは美しい有数の棚田。純粋の米造りでは維持が困難、政府のの補助金によって美観を維持している。キンタマーニはバトウール山とアバン山の外輪山が聳える高原地帯、雄大なバトウール湖「バリ島の水がめ」が広がる。

○１６０２年、オランダは香辛料を目的にジャカルタに東インド会社を設立し植民地化を進めた。大航海時代後の１６世紀以降、欧米列強の植民地支配は初めにキリスト教の布教から発展した。土地と金品を奪い、混血で民族の分断と浄化、教育を無視し愚民化を図り、奴隷として使役し搾取、弱肉強食、弱い者を虐め、従わない者は虫けらの様に殺す人種差別と残虐非道な侵略だ。目的は資源と権益確保で徹底した国益の追求だった。

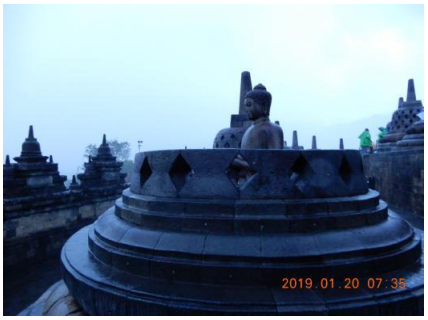
○昭和１７年（１９４２年）１月、日本軍は油田地帯の制圧の為、セレベス島（スラウエシ島）へ落下傘部隊による空挺作戦を敢行、蘭印攻略戦の火蓋が切られた。同年３月ジャワ島上陸から８日目、ジャカルタから南東へ約１００キロのカリジャチ飛行場で日蘭印司令官の会見で、蘭印軍は全面降伏を受入れ。３５０年間のオランダの植民地支配は解放された。古くから「危機に瀕した時、空から白馬の天使が助けに来る」と伝わる「ジョヨボヨの予言」がある。作戦は「天使の到来」とインドネシア国民から大歓迎された。

○インドネシア独立戦争～日本敗戦後、インドネシアは再占領を目論む英国、オランダと戦い、昭和２４年（１９４９年）１２月独立を勝ち取った。独立宣言に記された年号をタイトルにした２００１年５月公開の東宝映画「ムルデカ１７８０５」〔独立・皇紀２６０５年８月１７日＝１９４５年〕（藤由紀夫監督カラー）は祖国への帰還を拒み、インドネシア兵と共に激しい独立戦争を戦い抜いた日本人兵士２０００名のドラマである。日本人兵士の約半数が戦死した。この歴史的な記憶は今でもインドネシア国民の親日的な対日感情に影響を与えている。日本軍政が果した重要な事は、後の戦争でその中心となり独立に導いた初の軍隊組織ペタ（ＰＥＴＡ／祖国防衛義勇軍）を編成し教育した事。

○オランダ退役軍人の憂鬱～インドネシア独立戦争後、オランダには退役軍人を中心に根強い反日の気風があった。昭和４６年（１９７１）１０月、昭和天皇は国賓として招かれオランダ訪問した際、戦時中の恨みから卵を投げつけられると云う事件が起きている。

○１９７４年１月マラリ事件～田中首相がアジア５か国歴訪でインドネシアを訪問した際、首都ジャカルタで日系企業とスハルト政権・財界がビジネスで癒着しているとし、事務所・日本車を焼き討ちにする激しい反日暴動事件が発生、逮捕者４７０名、死者１１名をだす。当時は日本の経済の急成長時代、経済進出等でアジア諸国の反発が強かった。

○想い出～４６年ぶりの再訪である。昭和４９年１月、東南アジア５か国の旅は田中首相のアジア５か国歴訪と重なった。宿泊はサヌールのハイアット、日本の賠償で建てたと云うバリビーチもあった。空港は平屋で荷物は人力運搬、道は未舗装の田舎道で寒村だった。今回宿泊のヌサドゥアのハイアットは１９９１年に始まった新興開発地区である。



1.20 5時半：日の出を待つボロブドゥール

インド洋を背景にケチャックダンス

●H31(2019)4/10~7/16　ＪＴＢサン・プリンセスクルーズ 世界一周９８日間（予定）

＜4/10横浜発17:00～ 4/15基隆／台北（台湾）～4/19シンガポール～4/24マーレ（モルディブ）～
4/28.29ドバイ（ＵＡＥ）～4/30皇位継承～5/2サラーラ（オマーン）～〔5/6.7スエズ運河通航〕～
5/9サントリーニ島（ギリシャ）～5/11ドブロブニク（クロアチア）～5/12.13ベニス（イタリア）～
5/15バーリ～5/17チビタベッキア／ローマ（イタリア）～5/18カンヌ（フランス）～
5/19バルセロナ（スペイン）～5/21マラガ～5/22リスボン（ポルトガル）～5/24ビーゴ（スペイン）～
5/26ルアーブル／パリ（フランス）～5/27サウザンプトン／ロンドン（イギリス）～
5/29ダブリン（アイルランド）～6/1レイキャビック（アイスランド）～6/7.8ニューヨーク（アメリカ）
～6/11マイアミ～6/13オーチョリオス（ジャマイカ）～6/15ウイレムスタット／キュラソー島
（蘭領アンティル）～〔6/17パナマ運河通航〕～6/19プンタレスナ（コスタリカ）～
6/23カボサン・ルーカス（メキシコ）～6/25ロサンゼルス（アメリカ）～6/27.28サンフランシスコ～
7/1バンクーバー（カナダ）～7/3ジュノー／アラスカ～＜7/4ハバード・グレシャー入湾/
ヤクタットベイ＞～7/5～スキャグウエイ～7/7カレッジフィヨルド・ウイッティア／
アンカレッジ（アメリカ）～7/16横浜着7:00＞
【目的地は地球】２０ヵ国＋１地域(アラスカ)３１寄港地　総トン数：７７、４４１トン

○企画との出会いは２０１７年１２月初め、壮大な地球と世界の広さを体感する北半球一周のクルーズ。未知の国は２０ヵ国中半分、都市は３１寄港地中２６である。第一印象は“条件が整うのなら悪くないぞ！”航路の先に広がる新世界と景観に心が揺らいだ

＊２０１９年は節目の年に当たる。節目とは、２００９年９月から始めた熟年夫婦世界の旅は１０年目を迎える。後期高齢者の仲間入りをする。皇位継承により３０年の平成の世が幕をおろす。
見聞を広めたい意欲があっても、年々変化する老体、世界の旅に年限を感じつつある。
節目に相応しい一生の記念になる旅探しを思案していた頃だった。

○申し込みから１年越しになる。最も重視したのは健康診断と治療だった。長期船旅に耐えられ健康状態なのかを見極める事に時間をかけた。歯の治療は１年がかり、新しい老人特有の病状も見つかった。
日常的に風邪と転倒骨折に注意、更に体力の維持に務めた。

＊船旅中は長期間の留守宅対策が欠かせない。室内の生物、配達される郵便物、宅急便である。
便利な業者の長期留守宅管理サービスがあった。案ずるより産むが易しである。

＊船中清算はカード決済である。その支払いは寄港地の観光プラン代も含まれので、結構大きな金額になる。カード利用限度額と口座の残高管理は船中の重要な留意点になる。
又、長期にわたる船中滞在費が読み切れない。余裕を持たせた資金計画が必要なようだ。

○検討から決断、長期にわたる精進と気持の助走が続いた。出発が近づき、いよいよ準備の仕上げに入る。初めて経験する９８日間の長旅だ。どんなドラマと出会いが待っているのか？願いは、
“穏やかな船旅であれ”。海側バルコニー付B（面積約１７㎡・中央寄り）
ロングステイの小さな我が家、お世話になります。

☆“熟年旅行の時代”のツアー記録　〈２００９年(H21)９月～２０１９年(H31)４月発〉

1. H21.9.12　LK カプリ島と人気の４都市を巡る 新・イタリア満喫９　（LH）
2. H22.7.30　LK JLﾁｬｰﾀｰ便 チェコ・オーストリア・ハンガリー９
3. H23.3.16 旅物　魅惑の８都市めぐり　トルコベストハイライト９　（KE）
4. H24.4.8　LK スペイン・ポルトガル周遊１０　（KL）
5. H24.8.6　LK JLﾁｬｰﾀｰ便 バルト海クルーズと北欧３ヵ国周遊９
6. H24.9.1　LK JLﾁｬｰﾀｰ便 ｸﾛｱﾁｱ,ｽﾛﾍﾞﾆｱ,ﾎﾞｽﾆｱ,ﾍﾙﾂｪｺﾞﾋﾞﾅ４ヵ国巡９
7. H25.7.5　手配 グアム４（ハイヤット リージェンシー）　（UA）
8. H25.7.14 LK バルト海に連なるバルト３国ハイライト８　（AY）
9. H25.10.10 LK ブルガリア・ルーマニア紀行９　（LH）
10. H26.5.27 LK ショパンの故郷　ポーランドハイライト７　（LH）
11. H26.1.18 LK ホーチミン・アンコールワット満喫６　（JL）
12. H26.6.28 LK JLﾁｬｰﾀｰ便で行く スイスベルニナ鉄道と４大名峰９
13. H26.9.22 LK ハワイ５（シェラトン ワイキキ リゾート）　（JL）
14. H26.11.23 LK エルサレムとペトラ遺跡死海ﾖﾙﾀﾞﾝ･ｲｽﾗｴﾙの旅８　（EY）
15. H27.2.12 LK 南アフリカ・ジンバブエ・ザンビア・ボツアナ大自然満喫の旅１０　（SA）
16. H27.3.20 LK 南仏モンサンロワールパリ９+4泊５日ﾍﾞﾈﾙｯｸｽ３ｹ国　（AF）
17. H27.5.31 LK エジンバラからロンドンへイギリスハイライト９　（BA）
18. H27.6.26 LK ぐるりとドイツ漫遊の旅１０+２泊３日鉄道の旅　（LH／NH）
19. H27.9.24 LK モスクワ・サンクトペテルブルグロシアハイライト７　（SU）
20. H27.11.2 LK パラオ５ 世界遺産と食事満喫プラン（ロイヤル リゾート）　（UA）
21. H27.11.19 LK ５つの世界遺産を訪ねるオーストラリア ドラマチック大周遊９（QF）
22. H28.2.6　LK メキシコの古代遺跡とコロニアルな面影８　（AM）
23. H28.3.21　LK モアイの謎イースター島とタヒチ・ボラボラ島８　（TN）
24. H28.6.15　LKナイアガラ・グランドサークル・ロッキー北米大陸絶景の旅９　（AC）
25. H28.11.4 LK ニュージーランド南北ドラマチック周遊８　（NZ）
26. H28.11.27 LK サイパン４（ハイヤット リージェンシー）　（DL）
27. H29.1.22 LK ニューカレドニア８　離島イルデパン３泊(メリディアン)　（SB）
28. H29.2.22 旅彩 リオのチャンピオンパレードと南米３大絶景１５　（DL）
29. H29.9.15 LK エーゲ海の島々とギリシャ大周遊１０　（LH）
30, H29.11.5 LK ナイルの船旅と悠久のエジプト紀行８　（MS）
31. H30.2.6 旅彩 地中海古代遺跡を訪ねてシチリア島とマルタ島１０　（AZ）
32. H30.6.17 LK ハンザ同盟の古都と華麗なるドイツ浪漫紀行１０　（LH）
33. H30.7.10 LK デナラウ・リゾート（ウエスティン）に泊まる フィジー６　（FJ）
34. H30.10.15 LK青の街シャウエンとサハラ砂漠・モロッコハイライト９　（AF）
35. H31.1.17 LK ジョクジャルタに宿泊！　バリ島とボロブドウール満喫６　（GA）
36. H31.4.10～7.16 ＪＴＢチャーター サン・プリンセスクルーズ 世界一周９８　（予定）

☆“熟年旅行”の訪問国と地域～渡航３６回（延４０４日）・訪問国６８＋地域１２＝８０

＊内下線：仕事の時代に行った再訪問国３０＋地域　７＝３７

南北米＝１０　**カナダ、米国、メキシコ、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、ジャマイカ、**蘭領アンティル(ｷｭﾗｿｰ島)、コスタリカ、パナマ

ヨーロッパ＝35　フランス、モナコ公国、イタリア、バチカン市国、英国、スペイン、ポルトガル、オランダ、スイス、ベルギー、西ドイツ、（東ベルリン）、オーストリア、トルコ、ギリシャ、ソ連（現ロシア）、ノルウエー、スウェーデン、フィンランド、エストニア、ラトビア、リトニア、ポーランド、ルクセンブルク、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、チェコ、クロアチア、スロヴェニア、モンテネグロ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マルタ、アイルランド、アイスランド

アフリカ中東＝１２　**エジプト、モロッコ、イスラエル、パレスチナ、ヨルダン、南アフリカ、ジンバブエ、**ザンビア、ボツワナ、モルディブ、アラブ首長国連邦、オマーン

アジア太平洋＝１１　インドネシア、シンガポール、台湾、オーストラリア、フィジー、ニュージーランド
ニューカレドニア、パラオ、タヒチ、ベトナム、カンボジア

地域＝１２　ミコノス・ロドス・クレタ・サントリーニ（ギリシャ）、ハワイ（米）、グアム・マリアナ諸島（米準州）、サイパン・北マリアナ諸島（米自治領）、アラスカ（米）、パトモス（ギリシャ）、シチリア(伊)、イースター島（チリ）、ボラボラ島（タヒチ）

＊クルーズ含む

☆“仕事時代”の訪問国と地域～渡航６０回（延べ５５０日）・訪問国５２＋地域９＝６１

南北米＝９　熟年再訪国6、パラグアイ、ウルグアイ、チリ

ヨーロッパ＝１９　熟年再訪国16、デンマーク、ウクライナ(ｷｴﾌ)、ベラルーシ(ﾐﾝｽｸ)

アフリカ中東＝８　熟年再訪国2、チュニジア、アルジェリア、イラク、ケニア、タンザニア、セイシェルズ

アジア太平洋＝１６　熟年再訪国6、インド、パキスタン、スリーランカ、タイ、韓国、マレーシア、フィリピン、香港、マカオ、中国

地　域＝９　熟年再訪地域7、沖縄(米統治時代)、極東ソ連

●ちょっと！昔のことを

昭和４３年（１９６８）、日本のＧＮＰ（国民総生産）は西ドイツを抜き、世界２位の経済大国になった。戦後の日本が驚異的な経済成長を遂げて大飛躍をした頃である。東京オリンピック（Ｓ３９）、大阪万博（Ｓ４５）、札幌オリンピック（Ｓ４７）と国際的な大イベントが続いた。忙しかったが給料大幅アップを励みに、汗を流した時代だった。

○万博後、海外旅行の営業専任になった。海外旅行の大航海時代と云われた黎明期である。１９７１年ニクソンショックで、固定相場制は実質的に崩壊。１９７３年第１次オイルショック。激動する世界経済を反映し、日本の為替事情は円高基調。海外旅行の追い風である。１９６４年以来の海外旅行自由化の波と円高の風が協奏し、観光渡航者は急増した。社内の仕事は、今と異なり業務の根分けはあったものの、何でも屋の時代。情報が乏しかったこの頃、添乗業務は営業と企画力に磨きをかける重要な機会だった。現地の生きた情報と多くの知識と空気に触れ、お客様の思いに直接接し、求めるニーズを学ぶ旅の現場の叩き上げの時代である。団の解散時、「良かったよ、又ね！」との団員の言葉に勇気付けられ頑張った。一方、多くの予期せぬ出来事（不測の事態）に遭遇した。昨今、昔のあれこれが色々と思い出される。苦境やら緊迫したつらい場面もあったがよく凌ぐ事が出来たと思う。米のメシを食すると力が漲ったものだ。救いは会社の組織力と人との出逢いにあった。支援を頂戴した当時の社内外の関係者と団員の理解に“お陰様で”と心から感謝を申し上げたい。現役時代の終節は航空仕入等、海外旅行前線の後方支援業務を担当した。現場叩き上げ時代の経験が大いに役立った。洋行時代から大衆化時代へ大きく旋回し始めた海外旅行の黎明期、寝食を顧みず困難と闘いながら旅を導き、数々の武勇伝を経験した多くの猛者社員を輩出したのではないだろうか。

初欧州はルック添乗、羽田出発時(6.16)の集合写真

パリにてS47(1972)6.22

○走馬灯の様に脳裏に記憶が甦る

☆欧州最初の洗礼

欧州初めての添乗、“必ずある最初の質問は欧州添乗回数、２回目以上と返答せよ”との指示。
旅行中は指示通りの展開“冷や汗の毎日”が２週間続いた。

帰国当日、出発空港ＬＨＲ到着後、ＪＬ東京直行便は機材上の理由で欠航が判明、ＦＲＡ経由で帰国。ＦＲＡ空港は大きく複雑だった。最初の“洗礼”である。(S47.6/EUR)

☆豪雪による空港閉鎖、山猫スト、乗り遅れ、自然災害等、旅はドラマに満ちている

＊山猫ストでＦＣＯ発予定便が欠航、代替便でローマ脱出、ＬＨＲ経由ＢＲＵへ。全個荷物未着（翌朝到着）団員３８名、身の周り品１泊分の買出しに深夜奔走。

原案：ＦＣＯ発(AZ11:50)－ＧＶＡ（１泊）―ＢＲＵ(ﾌﾞﾘｭｯｾﾙ)（１泊）

修正：ＦＣＯ発(BA14:40)－LHR－ＢＲＵ着(BA20：30)（２泊）　(S51.3/ROM)

＊①金曜午後交通渋滞で航空機乗り遅れ。ホリデ-イン泊。夕食は史郎氏経営の「三船」へ。

原案：ローテンブルグ～ＭＵＣ(ﾐｭﾝﾍﾝ)発(LH16:25)－ＶＩＥ(ｳｨｰﾝ)（２泊）

修正：ローテンブルグ～ＭＵＣ（１泊）発(OS9:40)－ＶＩＥ（１泊）

②前日の降雨でシンプロントンネル崩壊、乗車予定の旧「オリエント急行」グリークーベニス間運休。ローヌ川の源流が流れる氷河山岳ルートを迂回しＶＣＥ(ﾍﾞﾆｽ)へ。

修正：グリーク～(氷河ﾙｰﾄ)～ｱﾝﾃﾞﾙﾏｯﾄ～(ｺﾓ湖)～ﾐﾗﾉ～ベニス着(20:30)　(S52.10/EUR)

③復路、ＡＭＳにて搭乗券発行拒否、理由はOB。上級席で帰国。交渉は力仕事だった。

＊①エジプト・ケニア・インド洋２島ツアー、往路ＢＡ便、大嵐でＡＮＣ(ｱﾝｶﾚｯｼﾞ)空港閉鎖、急遽ＦＡＩ(ﾌｪｱﾊﾞﾝｸｽ)へ緊急着陸。初っ端から乗継空港ＬＨＲ着は７時間遅れ。

②ＣＡＩ到着時、荷物１個が紛失、半年越しの追跡で返らなかった。当時、ＬＨＲ空港では保安上の理由から、搭乗直前に預託者自身による荷物の指差し確認を行っていた。残置荷物は処分される。この確認が洩れたと思われる。航空機の預託荷物紛失は正規の手続きで必ず戻る。最長は１週間かかった事もある。本ツアーの紛失は例外である。

③１９７８年２月初めは第５次中東戦争中、イスラエル軍の砲撃で予約のウインターパレスが直撃され休業中。隣接ロッジに泊る。臨戦態勢中で不安が募る。(S53.2/LXR)

＊出発当日、千歳空港豪雪で混乱、東京発国際線不接。ＢＧＷ(ﾊﾞｸﾀﾞｯﾄ)行，週２便の難しい国なのに、翌日代替便を手配し無理に出発。行程は最終地カラチ、モヘンジョダロを除き、事前の手配は全て変わった。手配変更をしながら旅した１６日間だった。

原案：機中泊―ＢＧＷ（３泊）―トルコ内（５泊）―ＡＴＨ(２泊)―ＫＨＩ(３泊)

修正：羽田(１泊)－ＢＫＫ(１泊)－機中泊－ＢＧＷ(４泊)－ＩＳＴ(２泊)　(S54.2/ｵﾘｴﾝﾄ)

＊ＴＮＧ/ＬＩＳ間予定便ストで欠航、代替便でモロッコ脱出ＢＣＮへ。ＬＩＳはカーニバル中のＮＣＥに振替、プラザホテルへ宿泊。“ニースは良かったね”とご満悦で帰国。

原案：ＴＮＧ発(IB9:10))－ＬＩＳ（２泊）―ＢＣＮ（２泊）―ＰＡＲ(２泊)

修正：ＴＮＧ発(IB14:10)－MAD－ＢＣＮ（２泊）―ＮＣＥ（２泊）　(S55.2/ﾏｸﾞﾚﾌﾞ)

☆出発になっても航空予約がとれていない、さてどうする～逆境からの逆転

＊アジア路線５区間中３区間ＨＬで出発、日中は手配の為にキャリア通い、予約の再確認とＮｏＳｈｏｗ率の割り出しを依頼、予定便の確保に成功し凱旋帰国。(S49.1/ｱｼﾞｱ)

＊ＡＦ復路便１１６名中４６ＨＬ、現地にて極秘プラン延泊オプションを発表。結果は作戦的中しＨＬ解消、延泊者は笑顔で帰国。“災いを転じて福となす”往路便ＡＮＣ悪天候の為、パリ着８時間遅れ、“渡りに船”になったかも？　(S54.11/PAR)

☆「スリ」「ひったくり」「置き引き」、日本人は狙われた

＊シスコ宿泊２日目の深夜就寝中、部屋へ賊が侵入、現金を奪い逃走。ブラックリストに挙がる常習犯グループの犯行が判明。現金全損、道中カンパで凌ぐ。(S50.1/SFO)

＊ローマ歩道通行中、肩からさげたＳバック、バイク族に引たくられる。(S50.11/ROM)

＊ローマ宿泊初日、夕食後部屋へ戻ったら、全ての荷物が持ち出され空っぽ。犯行特定できず、合鍵を使った外部者の複数による計画的犯行と云う。(S51.3/ROM)

＊帰路パリ空港待機中、置引発生。被害の手荷物中味は高価な土産満載。(S51.3/CDG)

＊広場は獲物を狙うスリ集団の溜まり場。特にベルサイ宮殿は新聞片手の輩が多かった。

☆旅は色々、新鮮な感動と予期せぬ出来事が突然やってくる

＊１９７３年１０月６日、エジプトシリア連合軍はイスラエルを奇襲攻撃。第４次中東戦争開戦である。
４日後アテネからベイルート(レバノン)経由日本へ。ベイルート空港は深夜の時間、待合室待機は
左右から銃口を向けた軍隊の中を歩く。薄暗く戦争に向き合う異様な厳戒警備に緊張感が走る。
航路は戦場上空を飛んだ。国家間紛争が絶えず、断続的に続いた中東戦争の頃、最も不安定な地域の
１つだった。(S48.10/ATH)

＊太平洋上ＪＬ２便、突然千m急降下。機内は騒然、恐怖のエアポケットだ。(S49.8/SFO)

＊復路ＳＫ機内で急性胃潰瘍発症、Ｆクラスへ席替え。羽田着後は健常者。(S50.3/CPH)

＊標高３４００mクスコの酸欠現象、近鉄でマチュピチュ往復。感動の一言。(52.2/ｸｽｺ)

＊２００万年前、ケニアの草原は人類の祖先が森林から移動し、二足歩行に進化した大地と言う。
穏やかな安らぎと懐かしさを感じる大地だった。魂の先祖帰りか？　マサイ族の部落訪問の時、
舗装仕立ての牛糞道路に吃驚、車に即刻逃げ返った。　(S53.2/ NBO)

＊ＬＥＤ(ﾚﾆﾝｸﾞﾗｰﾄﾞ)で若い２人連れに道を尋ねた。すかさずＫＧＢの尋問。(S53.6/LED)

＊１９７８年、鄧小平の改革開放政策が始まる。８月日中平和友好条約締結、本格的な交流開始。
人民公社を見学、物がなく異臭が漂う人畜同居の生活に驚愕。(S53.11/PEK)

＊ホテルの近く暴利のバーで飲む。危険を感じトイレから脱出、難を逃れる。(S54.2/ATH)

＊某ホテルでの告げ口、パリの簡素な朝食にお客“食べる物何もないね”“安いツアーだからね、
高いツアーに参加したらいいよ” 某助添（故人）の左まき答弁。(S54.3/PAR)

＊ホテルでウッカリ寝、バスタブ流水、浴室洪水、下部屋漏水、補償問題へ。(S54.5/HNL)

＊パリ深夜、呼出でロビーへ、団員２人が出発姿で待機、時計は日本時間。(S55.3/PAR)

＊航行ルートにより機長署名入りの記念証がでた。太平洋横断ルートは日付変更線通過記念証、
南下ルートは赤道通過記念証である。少なかった渡航者時代の名残だった。
残念な事にこれら記念証は見当らない。現存する当時の証拠品は旅券だけ。

＊冬季間の北極廻りで度々オーロラに遭遇、天空に舞う光のショーは幻想的だった。

＊２回の船旅、共に逃げ場の無い激しい船酔いになる。大海原の船旅には不安が残る。